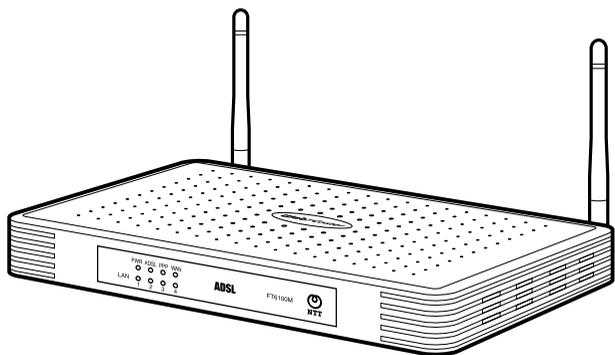


Web⚡Caster FT6100M

追加機能説明書

- 本書では、ファームウェアバージョンアップによって追加された新機能の使用方法を説明しています。
- ファームウェアバージョンアップを行う場合は、『ファームウェアバージョンアップ手順書』をよくお読みのうえ、内容を理解してからバージョンアップを行ってください。



追加機能について



本書では、ファームウェアバージョンアップ (Ver 02.01.00) によって提供される新機能の使用方法について説明します。

1) 設定画面の表示

設定画面の表示に「<http://ntt.setup/>」が使用可能となりました。

2) パケットフィルタ設定

セッション単位でのパケットフィルタ設定が可能となりました。

3) ポートマッピング設定

ポートマッピング設定機能でのポート番号の範囲指定が可能となりました。

4) 動作モード設定

プライベートネットワーク (LAN 側) でグローバル IP アドレスの使用が可能となりました。(Unnumbered 機能利用時のみ可能)

マルチセッションの設定において、列挙指定、範囲指定が可能となりました。

5) UPnP 機能

UPnPの設定において、UPnPを使用するセッションの選択が可能となりました。

商標について

- Windows®は米国 Microsoft® Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Windows® 98 は、Microsoft® Windows® 98 operating system の略です。
- Windows® Me は、Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system の略です。
- Windows® XP は、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および Microsoft® Windows® XP Professional operating system の略です。
- Windows® 2000 は、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system の略です。
- Macintosh® は、米国 Apple Computer, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。
- Netscape、Netscape Navigator および Netscape Communicator は、米国 Netscape Communications Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Acrobat® Reader は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他の各会社名および各製品名は、各社の商標または登録商標です。

目 次



Web 設定画面の表示	4
ファイアウォール設定	5
パケットフィルタ設定をする	5
NAT 設定	8
ポートマッピング設定をする	8
内蔵 ADSL モデムで使用する	10
Unnumbered 設定をする	10
マルチセッションを設定する	12
UPnP 機能	15
UPnP (ユニバーサル プラグ アンド プレイ) 設定をする	15

Web 設定画面の表示



Web ブラウザは、Internet Explorer や Netscape Navigator 等を使用してください。
(Internet Explorer Ver. 6.0 推奨)

- 1 WebブラウザのURLを入力する欄に「http://ntt.setup/」と入力して、[Enter] キーを押す。

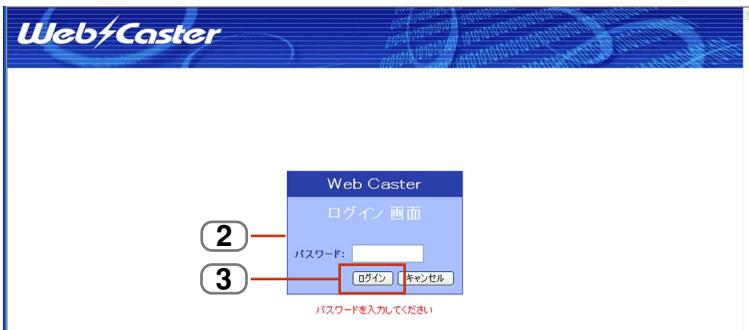


- 「http://192.168.1.1/」 と入力し、[Enter] キーを押すこともできます。
すでに本商品のIPアドレスが変更されている場合は、変更後のIPアドレスを入力してください。

- 2 ログインするための「ログイン画面」が表示される。

- 工場出荷時、パスワード設定はされていません。(空欄のまま操作 3へ進んでください。)
すでにパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
パスワードは、半角英数字で12文字以内です。

- 3 [ログイン] ボタンをクリックする。



- 4 「Web 設定」画面が表示される。



- 5 「メニュー画面」「メイン画面」から設定したい項目を選び、設定を行う。



パケットフィルタ設定をする

パケットフィルタとは、送信者／受信者のIPアドレスとポート番号等を組み合わせることにより、IPパケットの通過を許可したり拒否することができる機能です。この機能によって、不必要なIPパケットの送受信を制限することができます。

① 「Web 設定」画面を表示させる。

「Web 設定画面の表示」操作 ①～④ を行う。

② メニュー画面の「ファイアウォール設定」をクリックして、表示されるメニューから「パケットフィルタ設定」をクリックする。

- パケットフィルタ設定には、一般的なパケットフィルタが工場出荷時より複数組み込まれています。不必要なときは、有効からチェックを外すか、削除してください。

パケットフィルタ設定

パケットフィルタとは、IPアドレスとポート番号を組み合わせることにより、送信元から宛先へのIPパケットの通過を許可したり、拒否することができる機能です。この機能によって不必要なIPパケットの送受信を制限することができます。

「追加」ボタンを押してください。
設定が終了したら「登録」ボタンを押してください。

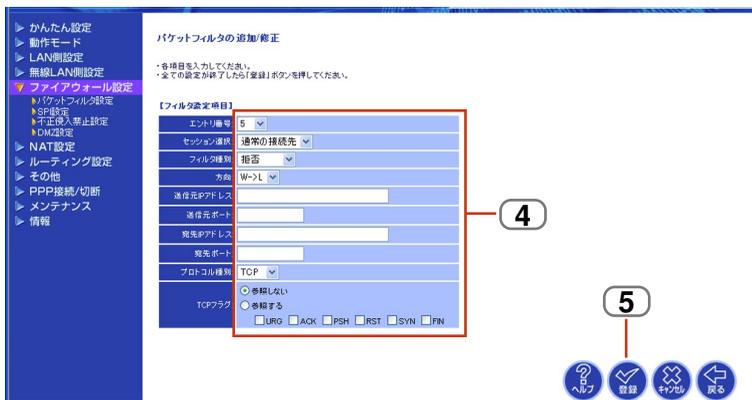
エントリー番号	有効	セクション	フィルタ	方向	送信元 IPアドレス	送信元 ポート	宛先 IPアドレス	宛先 ポート	プロトコル	TCPフラグ
01	<input checked="" type="checkbox"/>	全て	拒否	L→W	*	137-139	*	*	全て	参照しない
02	<input checked="" type="checkbox"/>	全て	拒否	L→W	*	*	*	137-139	全て	参照しない
03	<input checked="" type="checkbox"/>	全て	拒否	L→W	*	445	*	*	全て	参照しない
04	<input checked="" type="checkbox"/>	全て	拒否	L→W	*	*	*	445	全て	参照しない

③

③ [追加] ボタンをクリックする。

- 削除したい場合、削除したいエントリー番号のラジオボタンをチェックし、[削除] ボタンをクリックします。
- 設定を修正したい場合、修正したいエントリー番号のラジオボタンをチェックし、[編集] ボタンをクリックします。

次ページへ



- ④ 各項目を入力する。
 - 追加を中止する場合、[戻る] ボタンをクリックします。
- ⑤ 設定が終了したら、[登録] ボタンをクリックする。

[フィルタ初期値説明]

番号	説明
1	社内LANや内部ネットワーク等からWindowsのファイル共有ポート137,138,139を送信元としたWAN側へのアクセスを禁止します。 NetBIOS系のセキュリティホールへの攻撃を防ぐことができます。
2	社内LANや内部ネットワーク等からWindowsのファイル共有ポート137,138,139に対するWAN側へのアクセスを禁止します。 NetBIOS系のセキュリティホールへの攻撃を防ぐことができます。
3	社内LANや内部ネットワーク等からWindowsのファイル共有ポート445を送信元としたWAN側へのアクセスを禁止します。 NetBIOS系のセキュリティホールへの攻撃を防ぐことができます。
4	社内LANや内部ネットワーク等からWindowsのファイル共有ポート445に対するWAN側へのアクセスを禁止します。 NetBIOS系のセキュリティホールへの攻撃を防ぐことができます。

*ポート445は、ポート137-139のファイル共有以外に、Windows® 2000以降 (Windows® XPも) で追加されたダイレクトホスティングSMBサービスによるファイル・プリンタ共有サービスで使用されます。

次ページへ



「エントリ番号」

最大30個までのパケットフィルタ定義を保存することができます。

「セッション選択」

パケットフィルタの適用を「通常の接続先」「セカンダリセッション」「全て」から選択します。

「フィルタ種別」

送信元から宛先へのIPパケットの通過をさせる場合は「許可」を、禁止する場合は「拒否」を選択します。

- 「拒否（ログ）」 「許可（ログ）」 を選択した場合のみ、パケットフィルタによって許可または拒否されたパケットの情報をログ情報として保存します。
（保存されたログは、情報画面で確認できます。）

「方向」

WAN側からLAN側への処理を行う場合は「W → L」を、LAN側からWAN側への処理を行う場合は「L → W」を選択します。

「送信元 IP アドレス」

処理したいパケットの発信元 IP アドレスを指定します。

- ・ （1カ所の指定）
- ・ （範囲指定：開始 - 終了）
- ・ “*” を入力すると、すべての発信元 IP アドレスを選択した意味になります。

「送信元ポート」

処理したいパケットの送信元のポート番号を指定します。

- ・ （1カ所の指定）
- ・ （範囲指定：開始 - 終了）
- ・ “*” を入力すると、すべての送信元のポート番号を選択した意味になります。

「宛先 IP アドレス」

処理したいパケットの宛先 IP アドレスを指定します。
使用できる形式は送信元 IP アドレスと同じです。

「宛先ポート」

処理したいパケットの宛先のポート番号を指定します。
使用できる形式は送信元ポートと同じです。

「プロトコル種別」

処理したいパケットのプロトコル種別を「TCP/UDP/ICMP/全て」から選択します。

「TCP フラグ」

プロトコル種別の「TCP」「全て」を選択した場合に有効です。
TCPヘッダに含まれる6種類のフラグ「URG（緊急）/ACK（応答確認）/PSH（強制送信）/RST（セッション中断）/SYN（接続要求）/FIN（切断要求）」を参照することができます。
参照するフラグをチェックします。より詳細なフィルタが可能です。
ここでチェックしたフラグとすべて同じフラグを持つパケットのみがフィルタの対象となります。



お願い

- 「送信元 IP アドレス」「宛先 IP アドレス」で「大（開始） - 小（終了）」の IP アドレス範囲指定をすると、設定エラーになります。
- 「送信元ポート」「宛先ポート」で「大（開始） - 小（終了）」のポート範囲指定をすると、設定エラーになります。

NAT 設定



NAT (Network Address Translation) とは、グローバルIPアドレス (WAN 側) とプライベートIPアドレス (LAN 側) を相互変換できる機能です。TCPやUDPのポート番号も変換して、1つのグローバルIPアドレスを複数のプライベートIPアドレスに変換することができます。

ポートマッピング設定をする

ローカルネットワーク (LAN) 側にあるコンピュータに対して、ポートを指定してインターネット (WAN) 側からアクセスさせることができる機能です。接続要求されたプロトコルやポート番号に基づいて、指定したLAN側のコンピュータにルーティングすることができます。

- 工場出荷時は設定されていません。
- 最大 20 件まで登録できます。

- 1 「Web 設定」画面を表示させる。
「Web 設定画面の表示」操作 ①～④ を行う。
- 2 メニュー画面の「NAT 設定」をクリックして、表示されるメニューから「ポートマッピング設定」をクリックする。

ポートマッピング設定

インターネット (WAN側) から、ローカルネットワーク (LAN側) に接続されているコンピュータにアクセスすることが可能です。
要求されたプロトコルや、ポート番号に基づいて、指定したローカルネットワークのコンピュータにルーティングすることが可能です。
*設定が終了したら「登録」ボタンを押してください。

番号	プライベートアドレス	ポート番号	プロトコル
1.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
2.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
3.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
4.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
5.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
6.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
7.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
8.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
9.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
10.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
11.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
12.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
13.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
14.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
15.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
16.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
17.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
18.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
19.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
20.	192.168.1. []	[]	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP

② NAT 設定

③

④ 登録

次ページへ



お知らせ

- アプリケーションによっては、正常に通信できない場合があります。



3 各項目を入力する。

「プライベート IP アドレス」

インターネット（WAN）側からアクセスを可能にする LAN 側コンピュータの IP アドレスを入力します。

「ポート番号」

インターネット（WAN）側からアクセスを可能にするサービス（アプリケーション）で使用しているポート番号を入力します。

・ （1ヶ所の指定）

・ （範囲指定：開始 - 終了）

「プロトコル」

インターネット（WAN）側からアクセスを可能にするサービス（アプリケーション）で使用しているプロトコルを TCP または UDP から選択します。

4 設定が終了したら、[登録] ボタンをクリックする。

■ ポートマッピングの設定を削除する場合

削除したい番号の設定値を消去して、[登録] ボタンをクリックします。

■ ポートマッピングの設定を修正する場合

修正したい番号の設定値を修正して、[登録] ボタンをクリックします。



お知らせ

- プライベート IP アドレスの 192.168.1 等は、LAN 側設定（ 詳細取扱説明書 P1-2）での DHCP サーバの設定により表示が異なります。



Unnumbered 設定をする

プロバイダから取得した複数の固定IPアドレスをLAN内で使用する場合の設定を行います。

この設定は、複数の固定IPアドレスが提供される PPPoE Unnumbered 接続サービスへ加入されている方のみ有効です。

設定例に関しては、詳細取扱説明書 P5-2 「5-1 複数固定 IP アドレスを利用する」をご覧ください。

① 「ルータ詳細設定」画面を表示させる。

詳細取扱説明書 P3-4 ~ P3-6 「ルータモードを設定する」操作 ①~⑥ を行う。

② 「ルータ詳細設定」画面から「Unnumbered」の「ON」をチェックし、[次の設定へ進む] ボタンをクリックする。

ルータ詳細設定

インターネットへの接続設定を行います。
プロバイダから送られた資料に従って下記項目を入力してください。

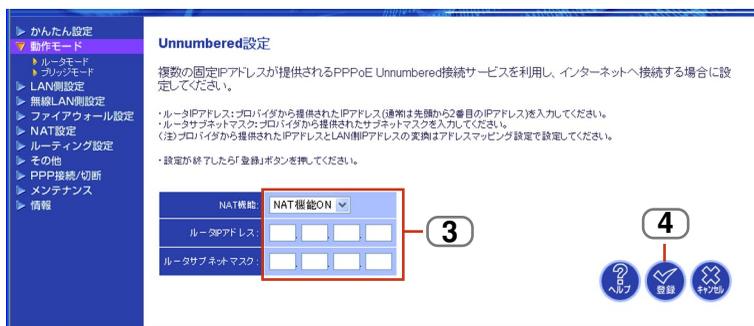
- ・接続先名は、接続先を区別するためプロバイダの名称を入力してください。(任意入力)
- ・ユーザー名、パスワードは、プロバイダから送られた資料に従って入力してください。(例: abc@ooo.ne.jp)
- ・サービス名は、プロバイダから指定がある場合のみ入力してください。
- ・DNS、MTU値に関しては、プロバイダから送られた資料に従って入力してください。
- ・自動切断機能を「OFF」にするに「キーアライブ機能」が有効になります。
- ・Unnumbered設定は複数の固定IPアドレスが提供される PPPoE Unnumbered接続サービスを利用する場合のみ有効です。 PPPoE Unnumbered接続サービスを利用する場合は、Unnumberedを「ON」にし、「次の設定へ進む」を押してください。
- ・設定が終了したら「登録」ボタンを押してください。

【設定項目】

接続先(プロバイダ)名:	<input type="text"/>
PPP認証方式:	自動認証
ユーザー名:	abc@ooo.ne.jp
パスワード:	*****
サービス名:	<input type="text"/>
プライマリDNS(DNS1):	<input type="text"/>
セカンダリDNS(DNS2):	<input type="text"/>
MTU値:	1454 (576<=設定範囲<=1492)
自動切断機能:	<input type="radio"/> ON 自動切断までの時間: 10 分 (1<=自動切断までの時間<=1440) <input checked="" type="radio"/> OFF (キーアライブ機能)
Unnumbered:	<input checked="" type="radio"/> ON 次の設定へ進む <input type="radio"/> OFF

ヘルプ 登録 ネット

次ページへ



3 各項目を入力する。

「NAT 機能」

「NAT 機能 ON」「NAT & スルー」から選択します。

「ルータ IP アドレス」

プロバイダから提供された IP アドレス（通常は先頭から 2 番目の IP アドレス）を入力してください。

「ルータサブネットマスク」

プロバイダから提供されたサブネットマスクを入力してください。

＜LAN 側でプライベート IP アドレスを使用する場合＞

1. 「NAT 機能」で「NAT 機能 ON」を選択します。
2. 「ルータ IP アドレス」を設定します。
3. 「ルータサブネットマスク」を設定します。

＜LAN 側でグローバル IP アドレスを使用する場合＞

1. 「NAT 機能」で「NAT & スルー」を選択します。
2. 「ルータ IP アドレス」を設定します。
 - ・LAN 側デフォルトゲートウェイ用とルータ自身の IP アドレスを兼用します。
3. 「ルータサブネットマスク」を設定します。
 - ・LAN 側デフォルトゲートウェイ用サブネットマスクを入力します。

4 設定が終了したら、[登録] ボタンをクリックする。



お知らせ

- プロバイダから提供された IP アドレスと LAN 側 IP アドレスの変換は、アドレスマッピング設定で設定してください。（☞詳細取扱説明書 P1-13）



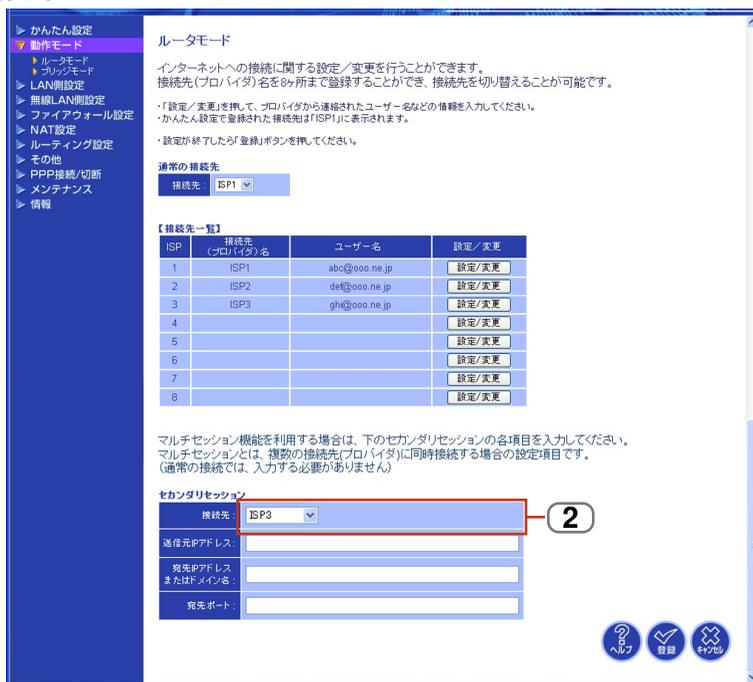
マルチセッションを設定する

1つの回線で、複数の接続先（プロバイダ）に同時に PPPoE が利用できる機能です。（最大2セッション）

例えば、フレッツ・スクウェアと ISP（インターネット サービス プロバイダ）等の2カ所に PPPoE で同時に接続することができ、ISP に接続しながらフレッツ・スクウェアで公開されているコンテンツを閲覧するとき等に便利です。

① 「ルータモード」の設定画面を表示させる。

詳細取扱説明書 P3-4 ~ P3-5 「ルータモードを設定する」操作 ①～④を行う。



② セカンダリセッションの接続先を選択する。

- 接続先一覧に登録されている接続先の中から選択してください。
- フレッツ・スクウェアを利用するときは、通常の接続先にはいつも使用されているISPを、セカンダリセッションにはフレッツ・スクウェアを設定することをお勧めします。

次ページへ



3 セカンダリセッションの各項目を入力する。

マルチセッション機能を利用する場合は、下のセカンダリセッションの各項目を入力してください。
マルチセッションとは、複数の接続先(プロバイダ)に同時接続する場合の設定項目です。
(通常の接続では、入力する必要がありません)

セカンダリセッション

接続先: IS P3

送信元IPアドレス:

宛先IPアドレスまたはドメイン名:

宛先ポート:

3

4

ヘルプ 登録 キャンセル

「送信元 IP アドレス」

LAN 側から WAN 側へのパケットの送信元 IP (LAN 側 IP) アドレスを設定します。

- ・ (1 カ所の指定)
- ・ (範囲指定: 開始 - 終了)
- ・ (列挙指定: 最大 8 個)
- ・ “*” を入力すると、すべての送信元 IP アドレスを選択した意味になります。
- ・ 指定なしの場合、この設定は無視します。

「宛先 IP アドレスまたはドメイン名」

WAN 側のパケットの宛先 IP アドレスまたはドメイン名を設定します。

宛先 IP アドレスで使用できる形式は送信元 IP アドレスと同じです。

- ・ (列挙指定: 最大 8 個)

ドメイン名の入力例: **http://www.〇〇〇.ne.jp** をセカンダリセッションで接続する場合、「」と入力します。

「宛先ポート」

WAN 側へのパケットの宛先ポートを設定します。

- ・ (1 カ所の指定)
- ・ (範囲指定: 開始 - 終了)
- ・ (列挙指定: 最大 8 個)
- ・ “*” を入力すると、すべての宛先ポート番号を選択した意味になります。
- ・ 指定なしの場合、この設定は無視します。

4 設定が終了したら、[登録] ボタンをクリックする。

次ページへ



お願い

- 「送信元 IP アドレス」「宛先 IP アドレス」で “/” (スラッシュ) でのサブネット指定、「大 (開始) ー小 (終了)」の IP アドレス範囲指定、IP アドレス中の “*” 指定をすると、設定エラーになります。
- 「宛先ポート」で 「大 (開始) ー小 (終了)」のポート範囲指定、“*” での範囲指定をすると、設定エラーになります。



〈セカンダリセッション設定例〉

「送信元 IP アドレス」

1 カ所の指定例：192.168.1.2

範囲指定の例：192.168.1.2-192.168.1.9

列挙指定の例：192.168.1.2;192.168.1.9

「宛先 IP アドレスまたはドメイン名」

ドメイン名の入力例：フレッツ・スクウェアをセカンダリセッションで設定する場合
「.flets」と入力します。

列挙指定の例：.flets;.jp

「宛先ポート」

1 カ所の指定例：110

範囲指定の例：109-110

列挙指定の例：109;110

UPnP 機能

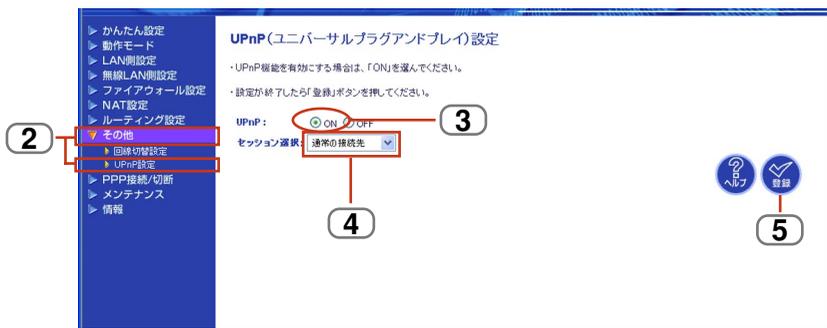


UPnP (Universal Plug and Play) 機能を使用すると、Web Caster FT6100M アクセスポイントのローカルネットワーク (LAN) 上にあるコンピュータからマイクロソフト Windows® Messenger/MSN Messenger が利用できます。
(インターネット電話 (専用サービスへの加入が必要)、インスタントメッセージ、音声チャット、リモートアシスタンス、アプリケーションの共有、ホワイトボード、リモートデスクトップ、ビデオチャットの各機能)

UPnP (ユニバーサル プラグ アンド プレイ) 設定をする

●工場出荷時は「OFF」になっています。

- 1 「Web 設定」画面を表示させる。
「Web 設定画面の表示」操作 (1)~(4) を行う。
- 2 メニュー画面の「その他」をクリックして、表示されるメニューから「UPnP 設定」をクリックする。
- 3 UPnP 機能を有効にする場合、「ON」をチェックする。
●UPnP 機能を無効にする場合、「OFF」をチェックします。



- 4 「セッション選択」を選択する。
●「通常の接続先」「セカンダリセッション」「自動選択」から選択します。
「通常の接続先」: 通常の接続先 (プライマリセッション) を優先してUPnPに対応します。
「セカンダリセッション」: セカンダリセッションを優先してUPnPに対応します。
「自動選択」: 接続されているセッションを優先してUPnPに対応します。
2つのセッションが同時に接続されているときは、「通常の接続先」を優先してUPnPに対応します。
- 5 設定が終了したら、「登録」ボタンをクリックする。



お知らせ

- 「セッション選択」の設定を変更した場合は、UPnP機能をお使いになるコンピュータを再起動してください。設定変更後は、使用するコンピュータを再起動しないとUPnP機能が正しく動作しません。
- UPnPに対応しているのは、Windows® XP/Windows® Meです。